



◇開演前ショート解説(午後六時十五分から三十分まで)
「恋重荷」について 梅田嘉宏

狂言 若和布 (和泉流)

シテ 新発意 佐藤 融
アト 住持 佐藤友彦
アト 素っ破 井上松次郎
アト 女 野村又三郎

後見 奥津健太郎

能 恋重荷 (観世流)

前シテ 山科狂司 久田勘助
後シテ 山科狂司の輩 久田三津子
ツレ 白河院女御 飯富雅介
ワキ 延臣 野口隆行
アト 下人

笛 竹市 学
小鼓 後藤孝一郎
大鼓 河村総一郎
太鼓 加藤洋輝

地謡

吉沢 旭 武田大志
八神孝充 古橋正邦
本田 勲 梅田邦久
松山幸親 梅田嘉宏

(午後八時三十分頃終了予定)

「イヤホンガイド」

日本語/米田真理(朝日大学経営学部准教授)
英語/古屋弓子(能楽イヤホンガイド)

◇狂言解説「若和布」(わかめ)

丹波の国能勢寺の住職が、寺の修復落成の祝いに檀那衆へ振舞う酒の肴として、「若和布」を買ひ求めて来いと弟子の新発意(しんぱち)見習いの坊主)に命じます。新発意は都へ出掛けますが都の賑やかさに海産物屋を探し出せないところへ、その様子を見ていた詐欺師が近づき、これが《若女(わかめ)》だと偽って連れの女を引き合わせます…。

都の詐欺師(素っ破)に偽物を売りつけられるというストーリーは多く、「末廣かり」「宝の笠」「仏師」などにも見られますが、本曲は後半さらに一展開する面白さを秘めています。

(井上菊次郎)

◇能解説「恋重荷」(こいのおも)

この能は世阿弥の作品であるが、そのアクの強さの故か、徳川期の相当早い時期に上演されなくなりました。その後、徳川末期になって上演が試みられ、その方式が現在の上演方法の基本となっている。

それでは、「恋重荷」のあらすじは……

宮廷の菊作りの老人、山科の狂司が女御の姿を一目見て、強烈な恋心を持つてしまった。女御の姿は彼にとって見たこともない女性の姿であった。彼にその思いをあきらめさせるために、延臣たちは美しい重荷を作つて狂司に持たせ、当然、それは人力で持ち得ない重荷であることよつて、彼の思いをあきらめさせようとした計画はうまくいかず、彼は、庭でのたれ死にしよう。(中入)女御は狂司の心情をあわれんで、庭上の彼の姿を見に来るのだが、そこで突然、盤石に押されて立ち上ることもできない。すでに狂司の怨霊のたたらぬ気配があたりを満たす。狂司は怨霊となつてあらわれ、強い語調で女御を責める。しかしこの強烈な思いも最後には、雪か霜か霰のように溶解して「これまでぞ姫小松の、葉守りの神となりて、(女御の)千代の影を守らん」と誓つてこの能は終了する。

このフィナーレの一部を哲学者の梅原猛氏は、以下のように述べられている。

「後場で鬼となつた山科の狂司の舞は、まことに壮絶にして華麗である」

この能の後場の説明に対して必要にして充分な表現だ。

もうひとつ、私はこの作品の切りつめた文体に讃嘆の思いを惜しまない。どうして千三百年代から千四百年代にかけて生きていた世阿弥にこのような文体が存在するのだろうか。極度に切りつめられた詩文はそのこと自体、抽象性と象徴性に充ちている。現代の最先端の象徴劇にも通ずる素晴らしい舞台展開たり得る能である。

天才世阿弥に三拜の礼を盡くす。

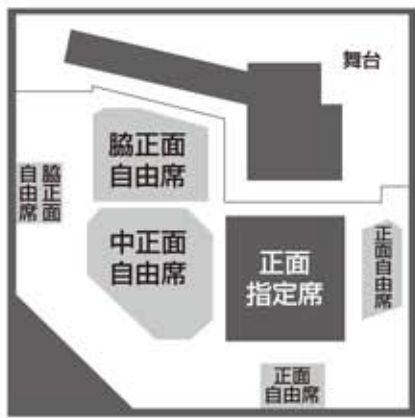
(泉 嘉夫)

チケット料金(税込み)

	指定 Reserved	自由 Non reserved	
		一般 Adult	学生 Student
前売 Advance sale	4,000円	3,000円	2,000円

*自由席のみ当日500円増 *学生券は25歳以下を対象とします。
*事業団友の会 会員は1割引
(名古屋能楽堂・名古屋市文化振興事業団チケットガイド・事業団施設窓口の前売のみ)
*上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は、事前に許可を受けた方以外のご遠慮下さい。*未就学児のご入場はお断りいたします。

前売券取扱所 Ticket Office
名古屋能楽堂/TEL.052-231-0088
名古屋市文化振興事業団チケットガイド/TEL.052-249-9387
*文化小劇場等、事業団が管理する文化施設窓口(金山荘除く)でもお買い求めいただけます。
中京テレビ事業/TEL.052-957-3333
栄プレチケ92/TEL.052-953-0777
チケットぴあ/TEL.0570-02-9999 (Pコード 431-092)
*お近くのセブンイレブン、サークルKサンクスでもお買い求めいただけます。



ワクワク・ドキドキキ典がいっぱい
「友の会」会員募集中!
公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 TEL.052-249-9385